

法労働組合主義正道への還元を示してゐる。労働組合活動、大衆的  
転換は叫ばれ（関東労働組合会議大会方針）、団体協約締結促進の  
提唱（總同盟大阪聯合、同京都聯合、全国労働、海軍労働組合等）  
、東京交通労働組合各大会スローガン）は、勢力ある労働組合の  
運動方針として揚げられた。

東京市電従業員の大部を以て組織する東文も、昭和四年自治会  
組以来、日本交通労働總聯盟の盟主的地位にあり、幾多斗争の壁を  
を持ち、左翼軍独組合として我国家労働組合運動の前線に特異な  
功績を擧げてきたと言はれてゐる。その動向は各種組合の指導  
精神に反映せざるはなく、その活動は亦組合運動渦紋の中心とな  
りて労働者の蹶起を慫慂した。

然るに最近の東文は亦一般労働組合の辿るべき路を違つて組合  
統制の危機に直面した。昭和七年十一月強制調停委員会の開設に依  
り争議解決へ當局財政更生計画樹立に因る労働争議経過……労働課  
編参照）以後その陣容は乱れた。

一月のスピード・アツク斗争を端緒として展開した組合内部の  
乱に就いては可最近組織統制に於て稍々弛緩し威力昔日の感なきに  
至るは誠に悲しむべき現象である」とと歎せしむる程、無統制、充

實、不完全を曝露して、勢力的に未曾有の衰退を示した。

此處に於て、三月開催中央委員会は、組合更生への活路として新  
しきスローガン、可団体協約権獲得斗争を決議して右翼転向を圖  
り、他方内部統制に全勢力を傾倒したのであるが、不期の行詰り  
、組合主脳部の感情的對立は、遂に自動車部の離反と結果し、東文  
分裂の危機を孕み、僅十月迄持ち越した。

然るに當局に於ける、立石電氣局長の辞任、新理事者に依る電氣  
局第三更生案確立の情報に感服された彼等は、その言に傾倒し、可  
労働者の牢固として振く可からざる階級意識と大同團結へ。欲求  
を以て、再び陣容整備へと、急據合流して十一月四日、東文合同年  
次大会を開催、極左小兒病理論の絶對廢止を叫び、組合内部の充實  
強化の要を認められた。

概括以上を如く、幾多波乱に富む、東文を中心とする市電従業員  
労働運動の昭和八年前期に於ける諸情勢に就いては、本資料第三號  
可東京交通労働組合最近の情勢」として既に報導した。本稿はその  
續稿として、同年後半期に於ける情勢を要記した。